

NO. 586抜粋

Access Report

2019年 1月 7日号
アクセス教育情報センター

目次

学校情報	学校情報	公開模試情報	教育情報	その他
・聖セシリア女子			・英語民間試験 ・大学入試に異変 ・部活動	・名言・迷言・冥言 ・高輪ゲートウェイ ・予約型奨学金

学校情報

聖セシリア女子 塾対象説明会(2018年7月4日)



3)入試について 入試広報部長 大橋先生

1. 2018年入試結果

	A1次	Bグループ	B英語	A2次	A3次	帰国
	2/1	2/1P	2/2	2/2P	2/3	12/10
募集人数	30	15	5	30	25	若干
応募者数	75	48	13	121	127	6

受験者数	63	47	9	86	49	6
合格者数	30	36	9	37	39	6
入学者数	22	11	7	10	25	3

2017年からB入試を導入。

A入試:2科4科選択。

B入試:グループワーク型…神奈川県公立中高一貫校のグループワークと同じ形式。

:英語…英検4級レベル。

A入試は2017年より減少。3次の受験者が減少する。

入学者は前年の83名から95名に。付属小からの進学者とB方式からの入学者が増える。

3次は他校との併願者より、1次、2次で不合格だった人の再受験が中心に。

入試アンケート(任意)によると、21%はバリエ教室があることが受験の動機になっている。小さい頃からやっていたバリエを継続させたい。バリエ教室を始めて10年に。

B方式の受験者は6年生2学期以降に受験を考えた人が多い。

B方式の併願は相模原中等との併願が多い。その他との併願は大きな変動はなし。

2. 2019年入試

A1次 2月1日午前 30名 2科4科選択

Bグループ 2月1日午後 15名 読解・表現・グループワーク

B英語 2月2日午前 5名 英語

A2次 2月2日午後 30名 2科4科選択

A3次 2月3日午後 25名 2科

帰国生 12月9日 若干名 国・算・英より2科目選択 面接

A方式で各科目による基準点はなし。

A方式の2科4科の合格判定はまず2科で合格者の7~8割を決定。残りを4科の受験生の中から。

A方式に入試特待制度を実施。各試験での成績優秀者(80%以上の得点)は入学金を免除。入学後の成績により次年度以降、特待生として奨学金を贈与。

A方式に複数回受験の優遇措置を実施。2次、3次試験の際にそれまでに受験した各科目の最高点を採用する。また、繰り上げ合格者を出す際に優先する。2018年入試で、1次不合格で再受験した人の50%が合格している。

A方式の入学手続きは2月17日17:00まで(公立中高一貫校の受験者は、受験票を提示すれば2月11日まで延納できる)

B方式の読解・表現は新聞や雑誌の記事を題材として、その内容を理解して自らの考えを記述する形式。グループワークは神奈川県公立中高一貫校に対応した方法。

B方式の英語は英検4級レベルの問題が中心。10分程度のリスニングテストを含む。

B方式の入学手続きは2月11日13:00まで。

帰国生入試の面接は保護者同伴面接。

帰国生入試の英語は英検3級程度。10分程度のリスニングテストを含む。

2018年でA方式とB方式のグループワークの両方を受験した人は11名。A方式不合格でB方式

合格の人はいなかった。A方式合格でB方式不合格という人はいた。

3. 出題方針・方式

例年と変更なし。

国語

大問1 10点 漢字10題 小学校の配当漢字から

大問2 10点 短文の作文 2語を用いて。主語、述語を入れて。

大問3 40点 長文読解

大問4 40点 長文読解

長文読解では記述問題の配点が4割程度ある。

語彙力を問う問題や解答の根拠となる部分が離れている問いで差がついた。

算数

特殊算は必ず出題する。中学入試を目的とした学習をしてきたかを見るため。

大問1 5題 約25点

大問2 特殊算4題 1題7点 途中式を要求。線分図、面積図でも採点の対象に。

大問3 図形の問題

大問4 グラフを使った問題

大問5 思考力を見る問題

正答率50%前後の問題の出来で差がついている。

社会

歴史分野の基礎知識を中心に出题。

時事問題は4月～10月までの出来事から。

歴史ではなぜ、どうしてという考えのプロセスを大事にして欲しい。

過去問をやっておくとよい。

テーマ問題では「あなたはどう思うか」を必ず問う。その際、単語を並べるだけで文章になっていない答案が見られる。

理科

知識を問う問題とそれをもとに考える問題を出題。

身近なものを題材としたい。

小学校の教科書の内容を中心に出题。教科書の内容から外れる場合は説明をつける。

受験生の興味、関心に資するものをもって作問している。

4)2019年入試問題について(配布資料より)

1. A方式

(1)出題方針(全科共通)

①中学校の学習で必要となる基礎事項を確認する問題、基礎力をはかる問題を中心とする。

②単なる知識の有無を問うだけではなく、思考の過程を重視し、それを点数化できるようにする。

③3回の試験とも同傾向で、同程度の難易度とする。

【国語】

(1) 出題趣旨

- ①総合的な記述力と読解力をはかる。
- ②解答を文章にまとめ、表現する力は国語力の中核をなすものであり、よってそれを重視する。
- ③小学校6年生の発達段階を考慮した内容、かつ何らかの発見や得るものがあるような内容の文章から出題したい。

(2) 出題内容・出題に関して

- ①大きな設問が4つで、1番が漢字、2番が短文作成、3・4番が文章読解の問題である。
- ②漢字は小学校で学習する教育漢字の範囲で、読み・書きともに出題する。例年読み書き合わせて10問程度である。送りがなも含めて問うこともある。
- ③表現力をはかるために短文作成を出題する。
- ④文章読解は、一題が小説や随筆のような文学的文章、もう一つが説明文・論説文のような説明的文章である。
- ⑤読解する文章の分量は二題合計で5,000字から6,000字程度とする。
- ⑥問題の形式は、記号を選択して答えるような客観式の問題と、文章を使って自分で文章をまとめて答える記述式の問題があり、配点としては全体の40～50%ほどが記述式の問題である。ただし、記述の問題はキーワードが入っているかどうかや、理解の度合いによって中間点をつけるようにしている。
- ⑦小学校6年生にとって言葉の意味が難しいと思われる語句には注釈をつける。
- ⑧小学校6年生の教科書の文章よりは多少難度の高いものを読みとれる力が必要である。

【算数】

(1) 出題趣旨

- ①中学校数学を学習するにあたって、必要となる基礎知識、技術があるかどうかをはかる。確実な計算力や単位の換算、割合の利用、グラフの読みとり、図形に関する基礎知識、技術が身につけられていることを確認する。
- ②特殊算など、入試問題の基本事項を習得しているかをはかる。これは基礎的な学力や思考力を問うほか、入試に向けて目的意識を持った学習姿勢が備わっていることを把握することにもなる。
- ③問題解決に必要な思考力があるかどうかをはかる。つまり新たな問題設定に直面したとき、適切に対処する能力があるかどうかを確認する。

(2) 出題内容・出題に関して

- ①大きな設問が5題で、1番が計算(逆算・割合・諸単位の計算を含む)、2番が特殊算、3番が図形(角度・面積・体積等、定規・コンパスは不使用)、4番がグラフの問題、5番が規則性などの問題である。
- ②極端に難しい出題は避け、全体として基本的な問題を中心に出題する。
- ③思考の過程を得点化できるよう、式を立てたり、解法や考え方を問うこともある。その場合は途中過程も配点に加える。

【社会】

(1) 出題趣旨

- ①本校における社会科指導目標に沿うように、まず、歴史分野の基礎知識を中心に出題し、あわせて、現代社会の諸問題から一つのテーマを取りあげて考察する問題を出題する。
- ②歴史分野に関しては、まず歴史の流れを把握し、そのうえで基礎的知識が活用されるような意図にもとづき出題する。
- ③テーマ問題に関しては、教科書で扱う現代社会の課題に沿い、受験生の「思い」を問う形式となる。

(2) 出題内容・出題に関して

- ①大きな設問が2題で、1題が歴史分野で約75%、もう1題がテーマ問題で約25%とする。
- ②歴史分野は原則として6年生社会の教科書「上」から、テーマ問題は教科書「下」に関連する最近の国内・国外の時事問題から出題する。
- ③歴史分野・テーマ問題ともに、地図・資料を用いた出題がある。
- ④歴史用語・社会用語は教科書準拠の漢字解答とする。
- ⑤テーマ問題で説明形式の解答は、自分の「思い」や「考え」をどう表現しているかを採点対象とする。
- ⑥図や写真はできるだけカラー印刷とする。

【理科】

(1) 出題趣旨

- ①理科は実験・観察に基づく科目であるという特性を重視し、筋道を立てて考える力を問う出題とする。
- ②中学校理科で基礎となる知識を中心とした出題とする。

(2) 出題内容・出題に関して

- ①「生物と環境」分野から約30%、「物質と変化」分野から約30%、「運動とエネルギー」分野から約30%、「地球と宇宙」分野から約10%の出題をする。
- ②実験・観察から考えるものを出題する。
- ③記述で解答するもの、作図するものを必ず出題する。(定規・コンパスは不要)
- ④理科用語については、漢字解答を原則とする。
- ⑤説明問題に関しては、答えるべきキーワードが用いられているか、文末表現(「～だから」「～のため」など)が正しく使われているかが採点のポイントになる。また、覚えた知識について、そのつながりが筋道立てて理解できているかを大切に考え、採点を行う。

2. B方式

【英語】

(1) 出題趣旨

- ①基礎的な英語力をはかる。
- ②英語に興味・関心を持って学んできたことをプラスに評価するような出題を行う。

(2) 出題内容・出題に関して

- ①英検4級レベルを8割程度、3級レベルを2割程度とする。また10分程度のリスニング問題を含

める。

②リスニングと筆記を合わせ、基礎的語彙力、文法力、読解力、作文力、聞き取る力などを総合的にはかれるような構成とし、大問は8題程度とする。

③問題は全て選択問題とし、リスニングを含め、全体の7～8割は英検に準じた問題形式とする。

④オリジナルの出題形式として、主に以下のような出題をする。

語彙力をはかる問題

- ・提示された単語の反意語・対義語・同意語などを選ぶ問題。(5題程度)
- ・平易な英語で説明された物が何かを、提示された語群から選ぶ問題。(5題程度)

リスニング力をはかる問題

- ・イラストの場面が3文の英語で3通りに説明され、その説明の中で最も適切と思われるものを選ぶ。(2題程度)

【読解・表現】

(1) 出題趣旨

①読み取る力(読解力)・組み立てる力(論理力)・伝える力(表現力)をはかる。

(2) 出題内容・出題に関して(予定)

新聞や雑誌などの記事を題材としたものから内容を理解し、自らの考えが述べられるかを採点の基準とした記述式のものとする。

【グループワーク】

(1) 実施趣旨

①グループでの話し合いにどのようにかかわったかを通して、集団の中での人間関係を構築する力、他人の発言を理解する力、自分の考えを組み立てる力・伝える力をはかる。

(2) 出題内容・出題に関して

①与えられたテーマについて自分の考えをまとめる。(5分)

②グループで話し合いをする。(35分)

(例)(1)「あなたの考えを書きましょう」

(2)「あなたの考えとその理由を1分程度で発表しましょう」

(3)「それぞれの発表をもとに具体的な内容を話し合い、グループとして1つの案を作りましょう」

<http://www.cecilia.ac.jp/>